



文責 フラッセル日本人学校補習校 校長 佐藤 博

ベルギーの交通事情①～ロータリーって何？～

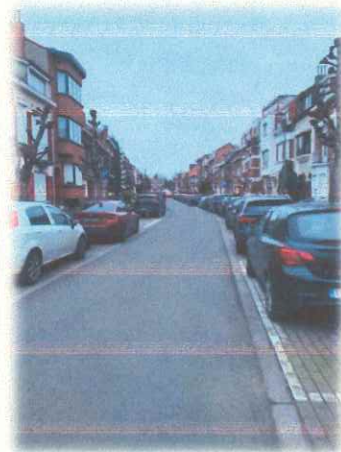
「ロータリー」と聞くと歌浦小のみなさんは、真っ先に職員玄関前のロータリーを思い浮かべるとと思います。きっと今頃はきれいな花がいっぱい咲いて、みんなの心を和ませているのではないのでしょうか。ただ、ベルギーをはじめとしたヨーロッパの国々では、ロータリーと聞くと右の図のような道路の真ん中にある円形のを思い浮かべる人がほとんどです。これは日本で言う四つ角の交差点で、環状交差点（ラウンドアバウト）といえます。交差点なのに信号機を設置する必要がなく、そのため交通渋滞も起きにくいという利点があります。ちなみにこの図は日本のものなので、左側通行でロータリーも左回りとなっていますが、ヨーロッパでは車は右側通行のため、このロータリーの回り方も右回りとなります。ロータリーの前には右下のような道路標識がよく立ててあります。「右回りですよ、間違えないでね！」ということを立ててあると思うのですが、確かにもし間違えてしまったら大事故につながりかねません。特に私たち日本人は車は左側通行が身についてしまっています。道路標識などを確認しながら、事故を起こさないように注意して運転しています。ちなみに右側通行も慣れるまではヒヤヒヤものでした。私はバイクで普段走っているので、右側通行にもだいぶ慣れ、車を運転するときにもようやく慌てることなく運転できるようになってきました。

さて、このようなロータリーのある環状交差点ですが、その最も大きいものがフランスのパリにある「凱旋門」です。ベルギーからパリへはバスでも行ける距離のため、休みを利用してバスの旅に行ったことがあるのですが、この凱旋門の周りは写真でもわかるように常に車でいっぱい！ロータリーに入ってしまうとなかなか抜けられず、用もないのにこの凱旋門をぐるぐると回ってしまった・・・なんていう話も数人から聞きました。そのくらい凱旋門の環状交差点の運転は難しいみたいです。ちょっと怖い気もしますが、いつか挑戦してみたいです。

また今回、この記事を書くにあたり、ネットで情報を調べてみたところ、日本でも最近この環状交差点を設置している都道府県がいくつかあるのだとか。確かに最初にも書いていましたが、信号がないので車の流れはスムーズになり、渋滞も減ってくると思いますが慣れないとなかなか車の流れに乗れないため、この交差点に入るのには相当な勇気が必要になりそうです。みなさんはまだ車の免許を取ることができない年齢ですが、みんなが大人になるころには、佐世保市にも環状交差点ができていられるかもしれません。

ベルギーの交通事情②～路上駐車はあたいまえ！～

ベルギー国内を運転して感じるのは、とにかく路上駐車が多いこと。何車線もある大きな道路以外の道には、とにかく路上駐車の手があらわれています。日本では車を購入するときに普段家のどこに駐車するかといった「車庫証明」が必要なため、路上駐車もする必要がないのですが、ベルギーではそのような「車庫証明」は必要ないため車はあるけど停めるところがない、という人が多いそうです。そのため合法的に路上駐車が許可されています。前後の隙間がほとんどないくらいずらっと縦列駐車をしている状態は本当に見事なもので、私も運転には慣れているつもりでしたが、なかなかこの駐車はスムーズにできません。また、両側に車がずらっと並んでいる道を走るときは、いつこの車のドアが開くかわからないため冷や冷やしています。ただこちらの人はそういった状態を常に経験しているため、車が通らないのをきちんと確認してからドアを開けるとのこと。とはわかっていても駐車している車の間を走るのが怖いものですね。道によっては両側に停めると車が走りづらいということで、月の前半はこちら側は駐車 OK、向こう側は×、という決め方もしている道路もあり、そこでは右の写真のような道路標識が立ててありました。ところ変われば交通ルールも全然違うんですね。





文責 フラッセル日本人学校補習校 校長 佐藤 博

ベルギーの交通事情①～ロータリーって何？～

「ロータリー」と聞くと歌浦小のみなさんは、真っ先に職員玄関前のロータリーを思い浮かべるとと思います。きっと今頃はきれいな花がいっぱい咲いて、みんなの心を和ませているのではないのでしょうか。ただ、ベルギーをはじめとしたヨーロッパの国々では、ロータリーと聞くと右の図のような道路の真ん中にある円形のことを思い浮かべる人がほとんどです。これは日本で言う四つ角の交差点で、環状交差点（ラウンドアバウト）といいます。交差点なのに信号機を設置する必要がなく、そのため交通渋滞も起きにくいという利点があります。ちなみにこの図は日本のものなので、左側通行でロータリーも左回りとなっていますが、ヨーロッパでは車は右側通行のため、このロータリーの回り方も右回りとなります。ロータリーの前には右下のような道路標識がよく立ててあります。「右回りですよ、間違えないでね！」ということを立ててあると思うのですが、確かにもし間違えてしまったら大事故につながりかねません。特に私たち日本人は車は左側通行が身についてしまっています。道路標識などを確認しながら、事故を起こさないように注意して運転しています。ちなみに右側通行も慣れるまではヒヤヒヤものでした。私はバイクで普段走っているので、右側通行にもだいぶ慣れ、車を運転するときにもようやく慌てることなく運転できるようになってきました。

さて、このようなロータリーのある環状交差点ですが、その最も大きいものがフランスのパリにある「凱旋門」です。ベルギーからパリへはバスでも行ける距離のため、休みを利用してバスの旅に行ったことがあるのですが、この凱旋門の周りは写真でもわかるように常に車でいっぱい！ロータリーに入ってしまうとなかなか抜けられずに、用もないのにこの凱旋門をぐるぐると回ってしまった・・・なんていう話も数人から聞きました。そのくらい凱旋門の環状交差点の運転は難しいみたいです。ちょっと怖い気もしますが、いつか挑戦してみたいです。

また今回、この記事を書くにあたり、ネットで情報を調べてみたところ、日本でも最近この環状交差点を設置している都道府県がいくつかあるのだとか。確かに最初にも書いていましたが、信号がないので車の流れはスムーズになり、渋滞も減ってくると思いますが慣れないとなかなか車の流れに乗れないため、この交差点に入るのには相当な勇気が必要になりそうです。みなさんはまだ車の免許を取ることができない年齢ですが、みんなが大人になるころには、佐世保市にも環状交差点ができていられるかもしれません。



ベルギーの交通事情②～路上駐車はあたいまえ！～

ベルギー国内を運転して感じるのは、とにかく路上駐車が多いこと。何車線もある大きな道路以外の道には、とにかく路上駐車の手があらわれています。日本では車を購入するときに普段家のどこに駐車するかといった「車庫証明」が必要なため、路上駐車もする必要がないのですが、ベルギーではそのような「車庫証明」は必要ないため車はあるけど停めるところがない、という人が多いそうです。そのため合法的に路上駐車が許可されています。前後の隙間がほとんどないくらいずらっと縦列駐車をしている状態は本当に見事なもので、私も運転には慣れているつもりでしたが、なかなかこの駐車はスムーズにできません。また、両側に車がずらっと並んでいる道を走るときは、いつこの車のドアが開くかわからないため冷や冷やしています。ただこちらの人はそういった状態を常に経験しているため、車が通らないのをきちんと確認してからドアを開けるとのこと。とはわかっていても駐車している車の間を走るのが怖いものですね。道によっては両側に停めると車が走りづらいということで、月の前半はこちら側は駐車 OK、向こう側は×、という決め方もしている道路もあり、そこでは右の写真のような道路標識が立ててありました。ところ変われば交通ルールも全然違うんですね。

